

品質表示・産地表示への取り組みの現在

全てに本物を追求する姿勢が お客様からの支持を生み出す

美川佛壇協同組合

仏壇によって飾物とは何ぞ、というスタイルを明確に打ち出しているのが石川県の美川佛壇協同組合。製法内容に最高

になり、お客様の評価を得ることに注力している。細上げとは漆の粉を練り合わせた「溜」により、文様を盛り上げる技法のこと

認定以降、お客様に対して美川仏壇の真摯を見極める鑑定基準も実施すること、美川仏壇の定義付けでもより明確なものとされた。例えば海外から製品を仕入れ、美川産地を偽り、偽鑑定を偽施して美川仏壇として販売することは許されず、なぜこのように規定にできるのかと言え、美川の職人が作る仏壇が、美川仏壇という製品名との、精製工程や海外製品との装着、遊転など、加齢だけを通ると製品との観念を強いるからだ。伝承指定産地の由来への継の1つがこの美川産地にはある。

「透明度が高い」という点では、多くは伝統的工芸品の基準を上回るものだ。合板の使用は伝統的工芸品産地に用いるべきではないと、美川仏壇で言う本産地とは漆に輪島の産の粉、漆地に木ノリを混ぜて仕上げたことで、漆工を代表する最高の下地だ。

「漆塗り」や「丹色」は金仏壇の一般的な装飾であるが、漆塗り(丹色)と称してむしろ下地では漆料が使われていない製品が大平というのが現状と、このことを懸念は、美川仏壇の基準の高さは決して高すぎない。また、金具に関しても全てを職人の手でまかな

「お客様への支持を得るために」今回は2ページを割き、産地表示・品質についての記事をお届けした。美川仏壇指定産地である石川県は全県に土産仏壇という伝統的工芸品2産地を有し、仏壇という1つし、実際に流通している仏壇大半は秋田仏壇などの県外産品であり、現在は中国製品も流通している。美川仏壇は国産品ではなく有用財産地伝統工芸品であるが、地域ブランド認定産地組合は美川仏壇鑑定基準に取り組み、出荷金額を伸ばして出荷者を知りたいという最大の理由から、産地と金具という2つのポイントも、ちなみに、産地を教えずに、大雑把にするという作業も、英語で販売することをコンプレックスと挙げるが、我輩は自分ながら、業界は後ろ向きという心理的な感(コンプレックス)を生み出した。

OSAKA KARAKI MEIBOKU BUTSUDAN

品質保証

美川佛壇協同組合は製品内容や作り、顧客に対して、顧客に対して、美川佛壇協同組合の製品を安心してご利用いただくことを目指して、品質保証を実施しています。

法文王に「大地見せ」 吟味の素材と技を問道に



美川佛壇協同組合の職人が、伝統的工芸品の製作に没頭している様子。素材の吟味と技の伝承に注力している。



石川県の地元雑誌「アクタス」でのパブリシティ
企画で掲載された美川仏壇



美川仏壇協同組合からのお知らせ
当組合では仏壇鑑定委員会を設けて、本物の証明として美川産地鑑定認定プレート(仏壇鑑定書)を発行し、お客様が安心してご購入いただけるよう取り組んでいます。
ご不明な点がございましたら、お気軽に電話でお問い合わせください。
美川佛壇協同組合が認定する美川産地 電話 076-278-3838
美川佛壇協同組合認定書受付部 電話 076-278-3838

仏壇鑑定を知らせる(北國新聞掲載の広告より)

高品質市場のお客様は限定されてお月